

第4回 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事録

開催日時	2022年5月23日（月） 9：29～11：10	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 1階ランチルーム	
出席者 (敬称略)	委員	豊田範子、杉山由香子、前田美和子、岡田淳、鶴田朋世、北川もと、竹村礼子、田中昭光、大隅明、仲村清彦、浅沼秀作、◎鯉坂映子、○悴田隆良（◎会長 ○副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、教育センター (受託事業者) 梓設計
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 基本計画検討会委員の変更と第3回基本計画検討会の振り返り

新たな学校推進課 （資料1-1～3説明）

2 通学負担の軽減について

新たな学校推進課 （資料2-1～2説明）

3 通学路の安全対策について

学務課 （資料3-1～2説明）

会長 今の説明について不明点や質問などあるか。

委員 資料3-1の2ページの一番上、点検実施者というのには町内会・自治会は入らないのか。

学務課 基本的には教育委員会と学校、各道路管理者、交通管理者のみとなっているが、地域によっては地域の代表も参加するケースがある。

委員 資料3-2について、左側の地図で、オレンジ色の線が現在の鶴四小通学路となっているが、先ほど通学路は「1日につきおおむね40人以上通行する道路の区間」と書いてあったが、現在ゼロのところに通学路になっているので、この資料は2022年度の通学路であるか。

あと、鶴川四丁目の中にスクールゾーンになっている道路が2本あるが、その道路がオレンジ色の線になっていない。通学路にはなっていないということか。

学務課 まず、この通学路図については最新のものを使用している。通学路については学校長の指定に基づいて作成をしており、その作成した結果が教育委員会に届くため、実態としてはゼロ人、ほとんど通っていないところもある。

委員 スクールゾーンや通学路について、毎年、来年の通学路について変更はないかどうか確認することがあり、教育委員会に届け出て、そして教育委員会が最新のものを作ると。町田市も毎年通学路やスクールゾーンの見直しということはやっている

のか。

学務課

その時点での通学路という報告を受けている。見直しは随時検討している。ただ、スクールゾーンについては、その設定を交通管理者や警察の協力も必要になるので、毎年、定期的に見直しているかは不明である。

会長

町田市では、学校数を半分に分け、隔年で必ず5つの組織の方々と立ち会って通学路を点検することになっているので、少なくとも1年に1回は通学路の点検をPTAの皆さんと一緒にすることになっている。もしかすると子どもが卒業して使われなくなりつつあるが、現在残しているということもあるかもしれない。この後のワークショップのときにもいろいろ意見をし、よりよい通学路を考えられたらいい。

委員

資料3-2に通学路接続候補という線が出ているが、これを見ると、ただ単に鶴四小と鶴三小の通学区域になっていないところを赤線でつないただけという内容で、実質的にはこれとは違う。特に真光寺一丁目、二丁目、それから、真光寺町から鶴三小に通う線の具体的なラインは相当変わってくる。例えば、国土舘大学の裏の道を通るとか、広袴二丁目の一部を通るとか、そういうコースが想定される。この資料としてはこれからワークショップを行う資料として、そういう準備でいいと思うが、実際に通る道であるかについて検討してほしい。

会長

これからワークショップで具体的に話し、提案して、詳しく決まっていく。
それでは、議論を深めるため、ワークショップに移る。

新たな学校推進課 ワークショップの説明

〔 ワークショップ 〕

Aグループ

Aグループは、今の状態に合わせて考えていく必要があるということで、鶴川第四小から鶴川第三小に向かう場合も、鶴川第三小から鶴川第四小に向かうことも含めて考えた。

真光寺町は子どもの数が少なくなってきていて、もしかしたら2029年に鶴川第三小から鶴川第四小に向かうようになった頃には本当に少なくなるのではないかという意見もあったが、2026年になり、鶴川第四小から鶴川第三小に通う必要がある数年間は、大きな道路、バスが通過している道路まで児童に歩いてもらい、若葉台駅から鶴川駅に行くバスか、鶴川団地センターを廻るバスか、既存のバスを使い、鶴川第三小まで通えるのではないかという意見が出た。

それから、危ない箇所として、抜け道になっていることから、暴走する車がある道や、鶴川第三小から鶴川第四小に行くようになったときには、現状は通学路になっていない②の道路について、交番の前だが、人信号機がないため、人が立たないと非常に危ないと言う意見が出た。それから、鶴川団地センターから鶴川第三小学校の前にかけて、通過する車両のスピードが上がっているのと、すごく交通量が多くなっている。そのため、危ないのではないかという意見があった。

あと、どうしても脇道や裏道を通して鶴川第三小に来ることが増えるんじゃない

かという意見が出た。

そして、通学路になることによって住民の理解を得られるかどうか、子どもが通るのが嫌だと思われる可能性もある。そのことから、毎年現場を見る必要がある。

Bグループ

Bグループは、真光寺町から鶴川第三小に通うときに、距離がとても伸びるので、バスの使い方や、どこの道を通学路にするのか話した。②の道の交番の前に信号がなく、この道をつないだときにガードレールがないという施設的な問題が出た。

それから、団地の中を抜けて行く場合、最短距離ではあるが、団地の中の道を通学路にすることが可能なのか、いろいろな問題があるという話が出た。

あとは、安全面のことで、道路の交通量だけではなくて人の通りや、国土館大の学生しか通らない道もあり、そのような道で通学させることができれば距離は近いだろうというような意見が出た。やはりバスの利用について多く時間を使った。

4 歴史の継承について

新たな学校推進課 (資料4-1～2説明)

ワークショップの説明

[ワークショップ]

5 学校施設配置について

新たな学校推進課 (資料5-1説明)

委託業者 (資料5-2説明)

委員 鶴の台にすごくこだわっているが、鶴の台を平らにして校庭の一部と考えることはないのか。

施設課 鶴の台については、今意見を伺っている限り、今の形で残す方向が強いのではないかと感じている。

委員 鶴の台はどういった場所であるのか。

委員 鶴川第四小ができたときに、当時鶴川第三小の先生だった人や鶴川第二小の先生も何人かいて、低学年専用の遊び場を高学年が遊ぶところよりもわざと1段高くして、そこを低学年専用の遊び場プラス学習園、農園にしようということで、創設時の教員たちの意見でわざと高くしたそう。それがずっと残ってきた。1段高くなっていることから「鶴の台」と名づけたと聞いている。

6 第5回基本計画開催概要

新たな学校推進課 2022年6月27日(月)9時30分～鶴川第三小学校を予定

7 閉会